

さらなる未知へさそう旅

知床観光圏整備計画

【平成21年度～平成25年度】

平成21年2月

北海道 羅臼町・標津町・清里町・斜里町

知床観光圏整備計画 (平成 21 年 2 月)

□ 目 次 □

1. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針	1
(1) 知床観光圏の地域概要等	1
(2) 知床観光圏内の観光資源	2
(3) 知床観光の改善すべき課題	6
(4) 知床観光の目指す方向性	8
(5) 知床観光圏のコンセプト	11
(6) 知床観光圏での3泊4日滞在イメージ	12
2. 観光圏の区域	13
3. 滞在促進地区の区域	14
4. 観光圏整備計画の目標	16
(1) 宿泊者数等の現状	16
(2) 観光振興に関する数値目標	17
(3) 地域住民等を中心とする観光まちづくり主体の確立による 継続的・自立的な活動体制の確立見通しについて	18
5. 観光圏整備事業に関すること	19
(1) 宿泊魅力の向上に関する事業	19
(2) 観光コンテンツの充実に関する事業	20
(3) 交通・移動の利便性向上に関する事業	21
(4) 観光案内・観光情報の提供に関する事業	22
(5) 農山漁村交流促進事業	23
(5) その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する事業	24
6. 計画期間等	25
(1) 計画期間	25
(2) 計画の見直し手順等	25
7. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項	26
8. 協議会に関する資料等	28
(1) 協議会の規約	28
(2) 協議会の協議結果	28
9. 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容	29
(1) 住民意見照会等の実施状況	29
(2) 住民から提出のあった意見、及び意見への対応結果	29

1 . 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

(1) 知床観光圏の地域概要等

知床観光圏は、北海道の北東部、オホーツク海に突き出た知床半島とその周辺区域で、羅臼町・標津町・清里町・斜里町の行政区域界で囲われた、東西約 60km、南北約 90km、面積 2,162km²（東京都とほぼ同じ面積）に及ぶ区域である。この区域は、約 3 万人の定住人口を有するが、そこに毎年約 200 万人の観光客が訪れる全国有数の観光地ともなっている。

知床半島の中央部には、斜里岳から羅臼岳、知床連山、知床岳、そして知床岬へと至る山岳地帯が連なり、その山岳地帯を挟んで、オホーツク海側（清里町・斜里町）と根室海峡・国後島側（標津町・羅臼町）とに地形区分され、気候が大きく異なるのみならず、支庁界（本州の県境に相当）、さらには生活文化圏も異にしてきた。

斜里町と羅臼町とは、知床国立公園やそのほぼ同じ区域の世界自然遺産登録地を共有するため、環境面を中心とした共同の取り組みはなされてきたが、観光面においては、知床の来訪者が行政区域を意識しているわけではないにもかかわらず、圏域の 4 町がそれぞれ独自に進めてきたのが現状である。

知床観光は、主に斜里町ウトロ区域以奥の国立公園内を中心とするエリアで、知床五湖や知床岬などの景勝地、断崖を海から望む観光船などを主要観光資源とするマスツーリズムに大きく依存してきたが、近年、原生林エコツアーやホエールウォッチング、流氷ウォークなどの体験プログラムに参加する個人観光客が増加しつつあるなど観光形態の変化が見られるようになってきた。

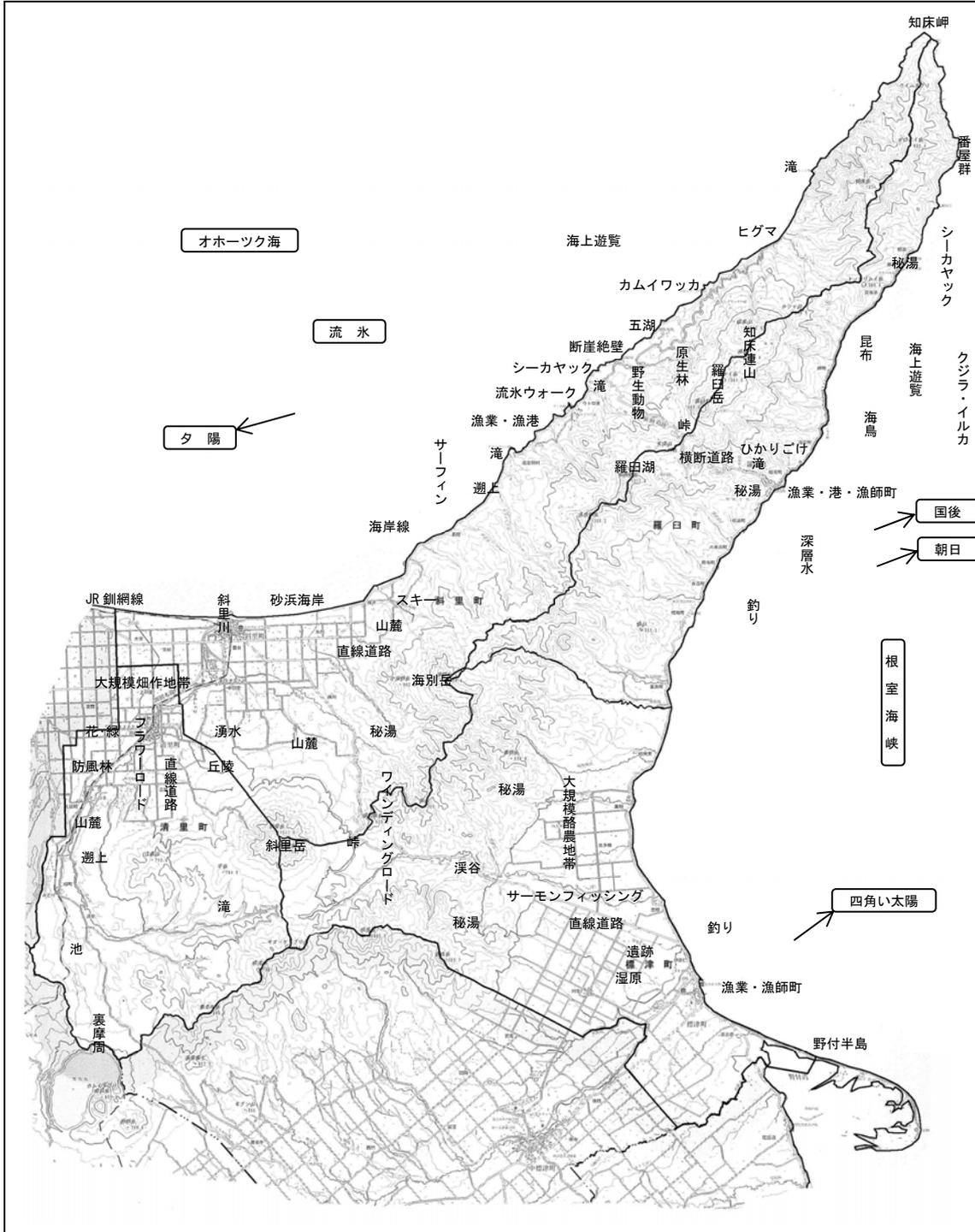
また知床は、国立公園・遺産地域以外にも実に多様なフィールドを含んでおり、周辺の良い自然環境はもとより、半島基部には北海道らしい広大な畑作地帯・酪農地帯が広がり大規模農業が営まれ、オホーツク海・根室海峡の豊かな海を資源とする漁業も道内屈指の規模を誇るなど、農村景観や産業を活用した観光開発の余地も大きいエリアでもある。

自然に恵まれたフィールドを共有する知床は、マスツーリズムから滞在型・個人型観光への転換を背景に、観光圏としての一体的な取り組みが求められている。

本計画を策定し、知床 4 町としての連携を強化し、来訪者の目線にたった観光地づくりのためのあらゆる方策を再構築し、観光圏として一体的な取り組むことを目指すものである。

(2) 知床観光圏内の観光資源

□ 主要観光資源図 □



知床観光圏内の観光資源は、世界的に見て希少なものも多い。主要な特質を記載すると、下記のとおりである。

1. 狭い領域に凝縮された生態系と、そこに生息する野生動物。

知床は、厳しい自然環境が開発を拒み、半島という閉鎖的な環境下で、良好で濃密な生態系が保存されてきた。そこには、希少性の高い野生動植物が数多く生息し、その中でも、シカ・キツネはもちろん、ヒグマやマッコウクジラ、ミンククジラ、猛禽類（オオワシ・オジロワシ）、海獣類（アザラシ・トド）など、他の地域ではめったに見ることができない野生動物を数多く、しかも比較的容易に見ることができる貴重な場所である。生態系の保存状態と、観察できる大型野生動物の多さにおいて、国内的には突出している。

原生林を歩くガイドツアーや、観光船によるヒグマやホエールウォッチングツアーは、非常に人気のある体験メニューであり、バードウォッチングや、生態系循環を象徴するサケマスの上も、知床全域で容易に見ることができ、近年、非常に人気がある。

2. 海岸の断崖、豊かな原生林、水（清流・湖・滝）の風景、冷涼で厳しい高山帯、知床連山や斜里岳の山岳景観。

知床の厳しい自然環境は、また同時に、独特な景観も数多く作り出している。人を寄せ付けない切り立った断崖絶壁や、針広混交林の豊かな原生林、森の合間を流れる清流や滝、湖沼群、本州の3000m級に匹敵する環境をもつ高山帯、斜里岳や羅臼岳の百名山をはじめ、半島を縦断する脊梁の山々とその山岳景観など、これらのすべての景観を狭い領域内で見ることができる。

この自然景観こそが、知床を観光地として発展させてきた基礎的観光資源であり、今後においても極めて重要な観光資源である。

3. 世界で最も低緯度で毎年接岸する流氷。

オホーツク海が世界で最も低緯度で流氷ができる海であり、その流氷はオホーツク海の南限である知床半島にぶつかり、堆積する。広大な海が一晩で氷に覆われ白海原に変わり、その白い流氷原の風景は今も多くの観光客を魅了している。元々閑散期であった2～3月に多くの人々が訪れるようになったのは、主に流氷のおかげである。

近年は、流氷原の上を歩くアクティビティーや、さらに流氷の下の海に潜る流氷ダイビングも非常に人気があり、アジア圏からの観光客も流氷目当てに訪れるようになってきている。

4. 根室海峡・国後島越しに昇る幻想的な朝日と、オホーツク海（流氷原）に沈む神秘的な夕陽。

北北東の海に突き出た知床半島は、根室海峡側では朝日を望め、オホーツク海側では夕陽を望めるという、珍しい場所である。半島の主稜線では同じ場所で朝日と夕陽を見ることができる。しかも、朝日は海峡と国後島越しに昇り、夕陽は海原に沈むという、日常の風景でありながらも幻想的で、多くの観光客を魅了している。

5. ヨーロッパを思わせる山麓の広大な畑作地帯と酪農地帯、それを彩る緑や花、防風林、丘陵、直線道路。

知床半島の基部、斜里岳や海別岳の山麓には、北海道でも屈指の規模を誇る畑作地帯と酪農地帯が広がり、ヨーロッパと見紛うような牧歌的な農村風景が車窓を楽しませてくれる。小麦やジャガイモ、牧草、あるいは道路脇に植えられた花々が、この農村風景に彩りを与え、季節とともに移り変わりながらも、来る人に心地よさを与えている。

半島先端側の原生的自然環境の景観とは異なり、農業が作り出す風景は安心感を与え、リピーターにはこういった農村風景がむしろ人気があり、潜在的に観光開発の余地が大きいともいえる。

6. サケマスをはじめ、多種多様で美味しい魚や昆布と、屈指の規模を誇る漁業や漁師町。

知床は、観光以前に漁業や農業の一次産業で栄えてきた地域である。漁業では、羅臼昆布が全国的に有名だが、羅臼・標津・斜里の3町の漁獲高は、さけますでは北海道の約33%、全魚種でも北海道の約11%を占め、3町の占める漁場の範囲が狭いことを考えると、生産性の高さは北海道内で屈指の規模である。標津町や斜里町では漁獲高に占めるさけますの比重が非常に高いが、羅臼町では根室海峡の深く複雑な海流のおかげで多種多様な魚種を捕れ、食することができる。

この漁業を活かした体験観光プログラムも年々開発されており、人気徐徐に上がってきている。

7. 野性味あふれ、秘境感満載の個性的な露天温泉群。

知床は千島火山帯上に位置するため、知床各所で温泉が自噴する。その結果、海が温泉になるセセキ温泉や、川が温泉になるカムイワッカ湯の滝や薫別温泉、森の中に位置して秘湯感満載の川北温泉や岩尾別温泉、熊の湯温泉など、個性的で魅力ある露天風呂が非常に多い。

温泉は、観光上も極めて重要な資源であり、アジア圏からの観光客にも人気がある。

8. 国立公園制度やナショナルトラスト運動に支えられた環境保全の取り組み。

知床半島の中央部以端は世界自然遺産に登録されただけでなく、国内でも有数の保全型国立公園（公園内の土地のほとんどが公有地であり、乱開発の恐れがない）でもある。また、開拓離農跡地の保全のために斜里町で行われている、しれとこ 100 平方メートル運動は、日本のナショナルトラスト運動の先駆的な取り組みであり、こういった自然保護活動が観光客にも重要なメッセージを発信しているものと思われる。

自然環境保全の仕組みと取り組みがあったからこそ、知床の景観は保たれ、自然型観光地となり、現在の各種体験型プログラムなどに繋がっていると思われる。

(3) 知床観光の改善すべき課題

特徴的な観光資源がある一方で、知床観光上、改善すべき主要課題としては下記の点が挙げられ、これら課題への取り組みが今求められているものと認識している。

1. 自然景観に依存した観光

知床観光は、昭和 39 年の知床国立公園指定、昭和 46 年の第一次知床ブーム（知床旅情効果）で脚光を浴びるようになってから現在に至るまで、一貫して自然景観（観光船から見る山並みや断崖、知床五湖、知床峠、流水など）を売りにしてきた。その特定の景観に依存してきた結果、知床全域での観光資源の開発は遅れ、マスツーリズムの減退傾向に比例して、知床観光入り込みも落ち込んできている。

近年は、ネイチャーガイドツアーやトレッキング、体験学習に主眼を置いた修学旅行誘致、エコツアーなど、様々な取り組みを行い、それぞれ浸透しつつあるが、割合としては依然として低い。

2. ウトロ周辺地域への一極集中

景観依存の結果でもあるが、知床を訪れる観光客は、ウトロ周辺地域に際だって集中している。宿泊施設もウトロに集中することになり、圏域内での宿泊率も 85%を越えるほどである。豊富で優れた観光資源があるにも関わらず、標津・清里・斜里市街は通過されてしまうことが多く、羅臼は若者を中心とする個人観光客を中心に人気があるが、知床全体としての比重としては大きくないのが実態である。

3. 個人型観光への対応の遅れ

知床観光は、道東ツアーの主要周遊ポイントと位置づけられ、団体ツアー観光とともに発展してきた。知床のネームバリューも手伝ってか、観光地としては順調に推移し、平成 9 年のピーク時には圏域として 73 万人の宿泊者を数えた。

団体型観光が順調であったこともあり、逆に、年々増加する個人観光客への対応が遅れ、宿泊施設・ガイド事業者など個々の事業者の取り組みを別にすれば、観光地全体としての新たな取り組みや個人客の受け入れ態勢は十分に進んでいないのが現状である。

4. 閑散期対策

多くの来訪者があるものの、季節的には6～10月の5ヶ月間に際だって集中しており、この傾向はこの20年以上変わっていない。流水観光の浸透により、2～3月の集客力はある程度見込めるが、7～9月の繁忙期と比べれば、半分以下の入り込みである。さらに、11～1月、4月の4ヶ月は、流水もなく、道路の冬期閉鎖、観光船の休航などにより、見るべき景勝地が少なくなり、観光客は激減してしまう。

5. 情報発信・連携力

ガイドブックや旅行代理店が情報入手の主要媒体だった10数年以前と異なり、インターネットを主力とする情報化の流れの中で、知床観光は新たなアピールをできず、立ち後れつつある。

また、同じ知床内の情報を、町界を越えて相互に十分に提供できていないなど、連携力も弱く、お互いの魅力をアピールしあうまでにも至っていない。

6. 交通機関

知床は、公共交通機関が脆弱であり、圏域へのアクセスや圏域内での移動が容易ではない。通年を通して便数が少ないため、旅行者が思うような移動もままならない。特に冬期間（11～4月）は知床横断道路が閉鎖され、ウトロー羅臼間の行き来ができなくなり、なおかつ斜里－標津間にはバスの運行もなく、公共交通機関での羅臼・標津と清里・斜里の行き来ができなくなってしまう。また、中標津空港から標津・羅臼へ至る直通バスが運行されていないことも旅行者にとって移動の障害となっている。

さらに、規制緩和の流れの中で、女満別・中標津と都市圏とを結ぶ航空路線も廃止や減便が続いており、ますます知床へのアクセスが困難になりつつある。

7. サービス向上・インバウンド対応

観光地として求められる基本的な接遇やサービスの向上には、観光関係者全体での連携した取り組みが不可欠だが、十分とはいえない。

また、急増する外客への対応も不十分である。

(4) 知床観光圏の目指す方向性

観光素材、現状課題を踏まえて、知床観光圏は下記の方向性を明確に目指した観光地作りを行っていく。

1. Field : 【面的観光へ】ウトロ周辺から知床全域へ、観光フィールドを拡大する！

これまでウトロ周辺地域に極端に偏っていた観光フィールドを、知床全域に拡大し、分散化させます。多彩な観光スポットや体験・滞在プログラム紹介・開発を通して滞在を促進し、リピーターの獲得に繋がります。

観光フィールドの拡大は、観光圏としてのスケールメリットを十分に発揮させることを意味します。

2. Target : 【個人型観光へ】メイン・ターゲットを、団体旅行を好まずフリープラン型を嗜好する、道外（特に大都市圏）の個人客（1名～数名）に設定する！

誰も彼も、ではなく、特定の客層を重点的な顧客として想定します。団体ツアー観光も、知床（ウトロ）観光において占める比重は大きいですが、知床観光圏事業で意図する滞在型個人型観光に馴染まないため、当面、団体ツアー観光との共存を図りつつ、個人客の誘致を積極的に進めるものです。具体的には、下記のスタイル・地域・年齢層を想定します。

推奨する観光スタイル : フリープラン型個人旅行

主要な顧客ターゲット地域 :

- ① 道外客（特に大都市圏）
- ② 東アジア～東南アジア圏客（特に個人旅行者）
- ③ 道内客（札幌圏及び片道3時間以内の近郊）

主要なターゲット顧客層 :

- ① (40代後半から60代の) アクティブな中高年層の夫婦・小グループ
- ② (20代から30代の) アクティブな女性や、アウトドアを好むカップル
- ③ 修学旅行生や、感受性の豊かな若者、子供によい体験をさせたいと願う家族連れ

3. Activity : 【体験型観光へ】 自然景観を「見て楽しむ」旅から、自然そのものを「五感と心で感じる」旅へと、知床の旅の推奨スタイルを転換する！

観光ポイントを巡る線的なツアーではなく、エコツアーをはじめとする体験型アクティビティプログラムを多数用意し、知床の自然を体感する観光スタイルを提案する。

4. Stay : 【滞在型観光へ】 日帰り or1泊・通過型・周遊型観光から、3泊4日知床滞在に耐えうる観光地づくりを目指す！

知床では、ほぼ通年、中2日の滞在メニューを確保できることから、3泊4日以上滞在を強く推奨する観光地づくりを目指します。周遊地の一つとしてではなく、知床が唯一の目的地・滞在地となるような観光地を目指します。

5. Option : 【着地型観光へ】 知床での滞在プランを任せられる窓口を創設し、企画・予約・発券の一元化を目指す！

知床のことは知床に任せてもらえるよう、現地旅行窓口を創設し、一元化できるよう体制を整えます。そして、個人旅行者への確実で安心な数々のプランを提供できるようにすることを目指します。

6. Season : 【通年型観光へ】 年間を通した楽しみを創出し、季節間の入り込みアンバランスを是正する！

入り込みの季節間変動を是正し、特に11月～4月の滞在を増やすためのプランを創出し、通年楽しめる観光地づくりを目指します。

7. Information : 【情報一元化へ】 知床観光の情報発信を一元化し、旅行者の求めに応じた情報発信を目指す！

情報発信や案内業務、プロモーション・PR活動などの一元化を目指し、知床観光圏としての協力関係を構築します。

8. Ecology : 【環境保全型観光へ】世界自然遺産登録地として、自然環境保全型の観光地づくりを目指す！

知床は、ただ消費するだけの観光地ではなく、公共交通機関の推奨や環境への負荷軽減に努め、環境との調和を目指した観光地づくりを目指します。

(5) 知床観光圏のコンセプト

知床観光圏では、世界自然遺産の地として、海から山までが一体となった、圧倒的で濃密な自然生態系を有し、その豊かな自然をフィールドとする多彩なエコツアーリズムや各種プログラムを体験することができます。

知床の自然は、人間を寄せ付けないような神々しさを有しますが、ガイドなどとともに、ひとたび足を踏み入れれば、自然のダイナミックさや奥深さ、複雑さを知ることができる貴重な機会になると同時に、野生そのものの醍醐味を体感することもできます。豊かな自然は、私たちに大切な何かを教えてくれるはずです。

コアな自然地域の周辺には、自然の恵みを私たちに循環させる漁業や農業の一次産業とその産業が作り出す風景が広がっており、都会では感じるできない癒しや、自然体験の後の安らぎを与えてくれます。そして、食や温泉、あるいは夜明けや夕陽、海岸線美や流氷の風景も、同様に大きな満足を与えてくれるものでもあります。

こういった経験は、これまでのマスツーリズムでは得られないものが多いため、知床観光圏では、知床を目的地とした来訪と、ゆっくりと滞在することを強く推奨し、

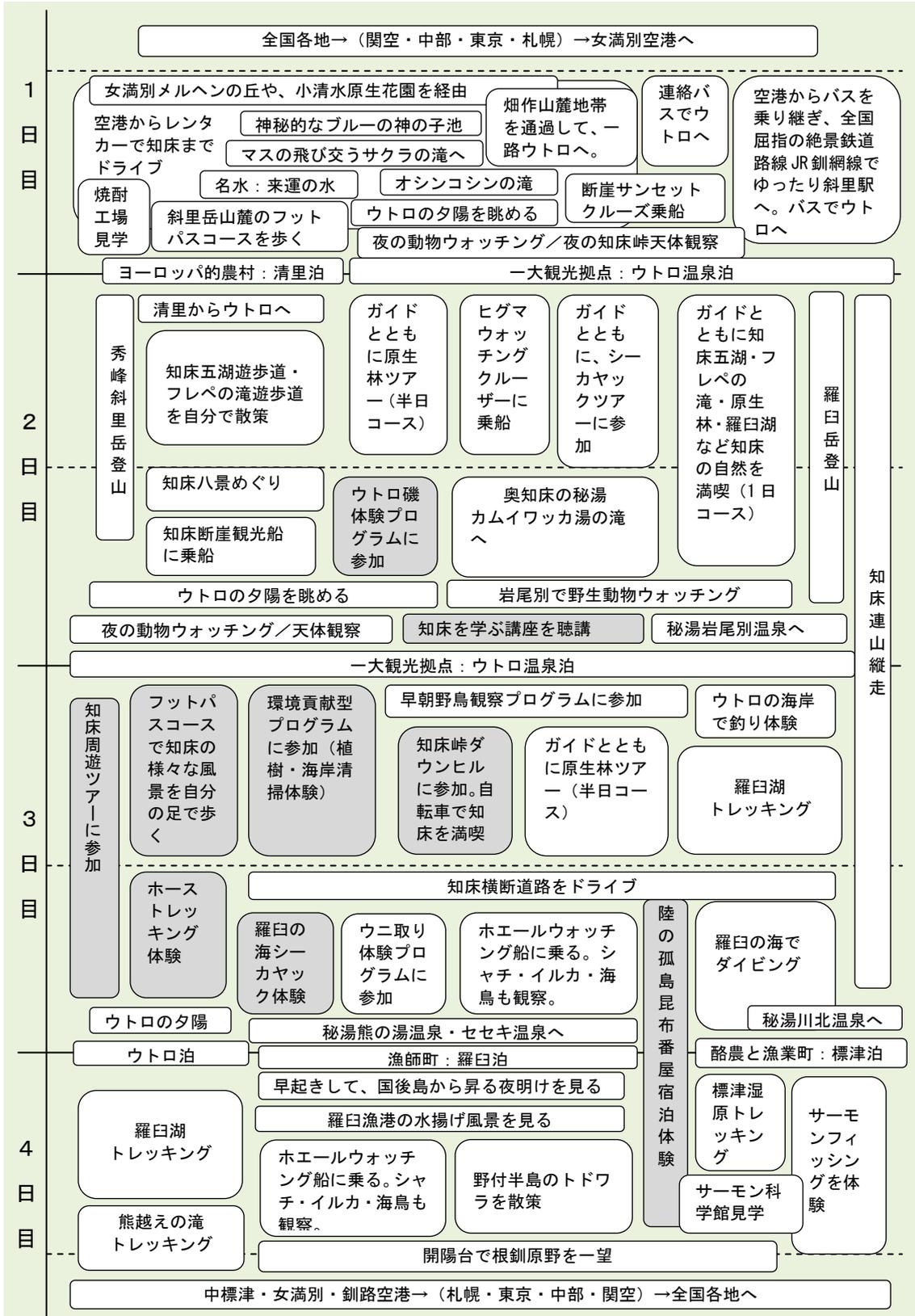
そして、今後の知床と知床観光の新たな可能性への期待も込めて

さらなる未知へさそう旅

をキャッチコピーに据えて、地域が一丸となった観光地づくりを目指していくものです。

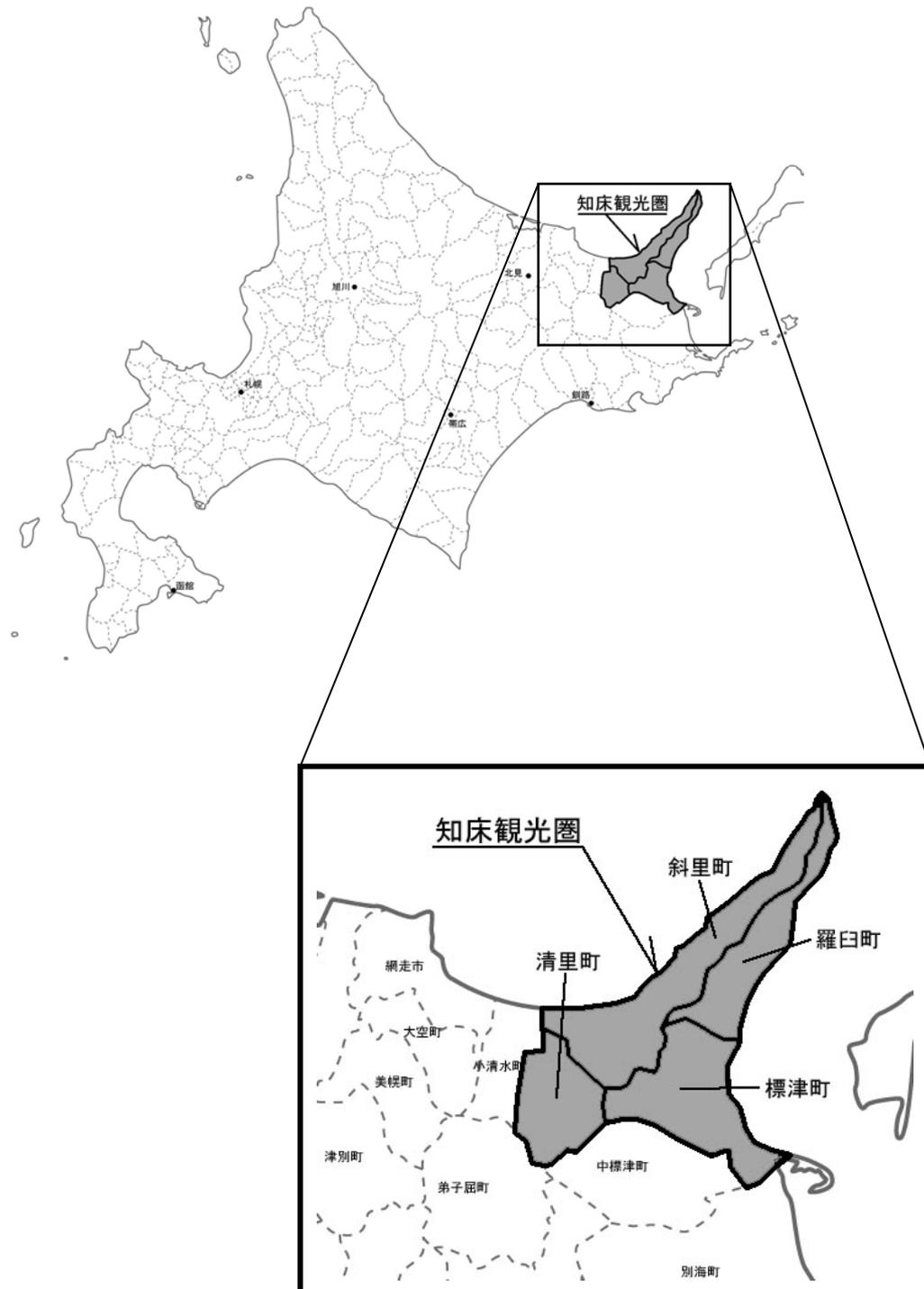
(6) 知床観光圏での3泊4日滞在イメージ

※網掛箇所は観光圏整備事業で実施予定



2. 観光圏の区域

知床観光圏は、北海道 目梨郡 羅臼町、標津郡 標津町、斜里郡 清里町、斜里郡 斜里町の4町である。



3. 滞在促進地区の区域

知床観光圏における滞在促進地区は、下記の5地区とする。

□ 滞在促進地区①：羅臼地区

- ・ 区 域：羅臼町富士見町・湯ノ沢町・春日町・海岸町・船見町・本町・麻布町・相泊・共栄町・八木浜町
- ・ 設定理由：海洋資源が豊富な漁師町で、ホエールウォッチングなど体験プログラムが増加している。個人客に人気がある滞在拠点である。
- ・ 宿泊施設軒数：23 軒（収容人数 813 人）

□ 滞在促進地区②：標津地区

- ・ 区 域：標津町南 3～8 条東 1 丁目～西 1 丁目
- ・ 設定理由：根室海峡側の知床への入口の町。漁業・酪農が盛んで、サーモンフィッシングのメッカであり、釣り客の滞在に人気がある。特に体験学習や修学旅行誘致の滞在拠点となる。
- ・ 宿泊施設軒数：6 軒（収容人数 299 人）

□ 滞在促進地区③：清里地区

- ・ 区 域：清里町羽衣町・水元町・向陽・上斜里
- ・ 設定理由：阿寒・摩周側からの知床への入口に位置し、斜里岳山麓の農村地帯である。花観光や斜里岳登山、フットパスや各種トレッキングなどの滞在拠点であり、長期滞在やリピーターに好まれる。
- ・ 宿泊施設軒数：6 軒（収容人数 179 人）

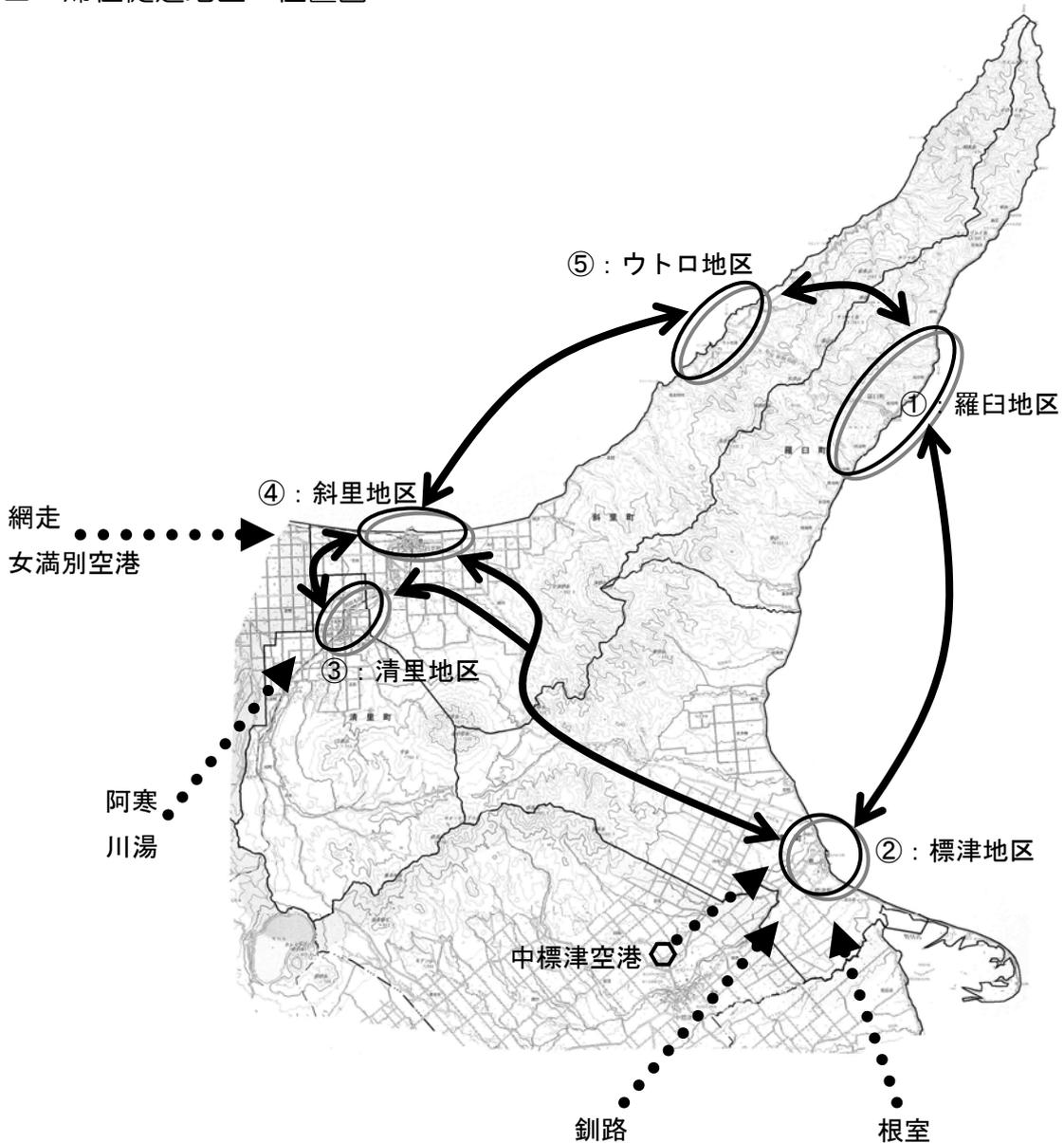
□ 滞在促進地区④：斜里地区

- ・ 区 域：斜里町大栄・西町・港町・本町・文光町・豊倉・豊里・以久科北・峰浜
- ・ 設定理由：網走側からの知床への入口に位置し、知床全域への中継地点となる場所にある。JRの駅もあり、知床滞在や道東観光の拠点となる。
- ・ 宿泊施設軒数：15 軒（収容人数 671 人）

□ 滞在促進地区⑤：ウトロ地区

- ・ 区 域：斜里町ウトロ西・ウトロ東・ウトロ香川・ウトロ中島・岩尾別
- ・ 設定理由：オホーツク海側の半島中央部に位置する知床最大の宿泊拠点である。
1,000人規模の大型ホテル4軒をはじめ、大型観光船の発着や各種体験プログラム、イベントも多く、知床観光の滞在を促す主要地区である。
- ・ 宿泊施設軒数：21軒（収容人数5,025人）

□ 滞在促進地区 位置図



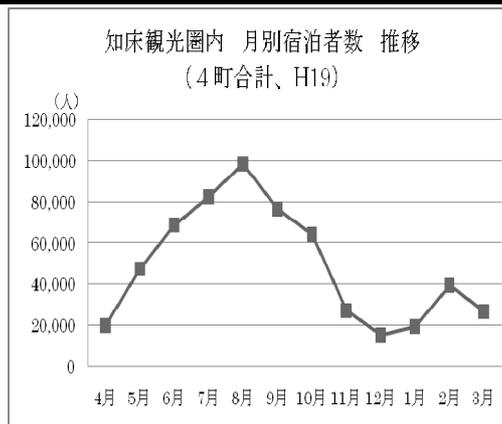
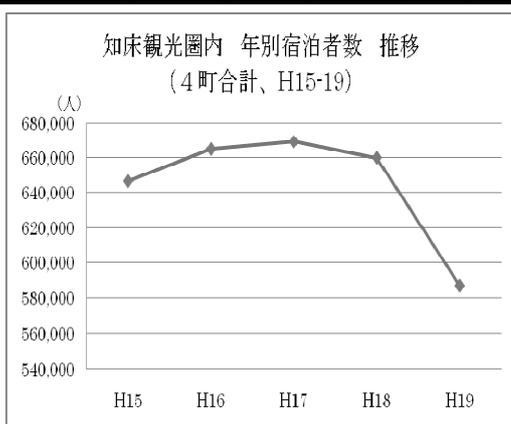
4. 観光圏整備計画の目標

(1) 宿泊者数等の現状

知床観光圏内の宿泊者数及び平均宿泊日数は、下記の通りである。

観光圏内の宿泊者数の推移 (単位：人)

年 度		H15	H16	H17	H18	H19
観光圏内 合計		646,319	664,648	669,044	659,797	587,472
町別 内訳	羅臼町	36,229	42,212	44,525	42,788	38,741
	標津町	20,209	18,571	17,455	15,628	15,402
	清里町	16,630	16,886	14,222	14,126	12,596
	斜里町	573,251	586,979	592,842	587,255	520,733
月別 内訳	4月	20,498	20,292	18,513	21,494	20,030
	5月	57,134	59,376	50,520	58,302	47,731
	6月	76,540	71,002	70,686	81,778	68,929
	7月	93,401	86,638	91,571	91,994	82,604
	8月	101,876	102,104	109,147	106,336	98,555
	9月	85,009	87,991	98,033	89,087	76,702
	10月	64,347	73,122	82,903	78,811	64,163
	11月	23,043	29,292	33,533	29,764	27,470
	12月	18,449	18,387	15,759	17,480	15,411
	1月	19,306	22,363	19,718	18,809	19,495
	2月	49,761	55,875	44,922	39,745	39,576
	3月	36,955	38,206	33,739	26,197	26,806



平均宿泊日数の推移

年 度	H16	H17	H18	H19	H20
平均宿泊日数	1.08	1.09	1.14	1.12	1.11

(2) 観光振興に関する数値目標

	H20年度 (推定) (基準年)	H21年度 (1年目)	H22年度 (2年目)	H23年度 (3年目)	H24年度 (4年目)	H25年度 (5年目)
宿泊者数(人)	542,000	547,400	552,900	558,400	564,000	569,600
外国人宿泊者数(人) (宿泊者数の内数)	16,500	18,200	20,000	22,000	24,200	26,600
平均宿泊日数(泊)	1.11	1.12	1.14	1.16	1.18	1.20
リピーター率(%)	—	(1.00) ※	(1.02)	(1.04)	(1.06)	(1.08)

※ リピーター率は、データがないため、H21年データを1.00とした場合での相対目標値を採用。

目標1【年間宿泊者数】

542千人(H20年度推定)から570千人(H25年度目標)に、約5%増加させる。

目標2【外国人宿泊者数】

17千人(H20年度推定)から27千人(H25年度目標)に、約60%増加させる。

目標3【平均宿泊日数】

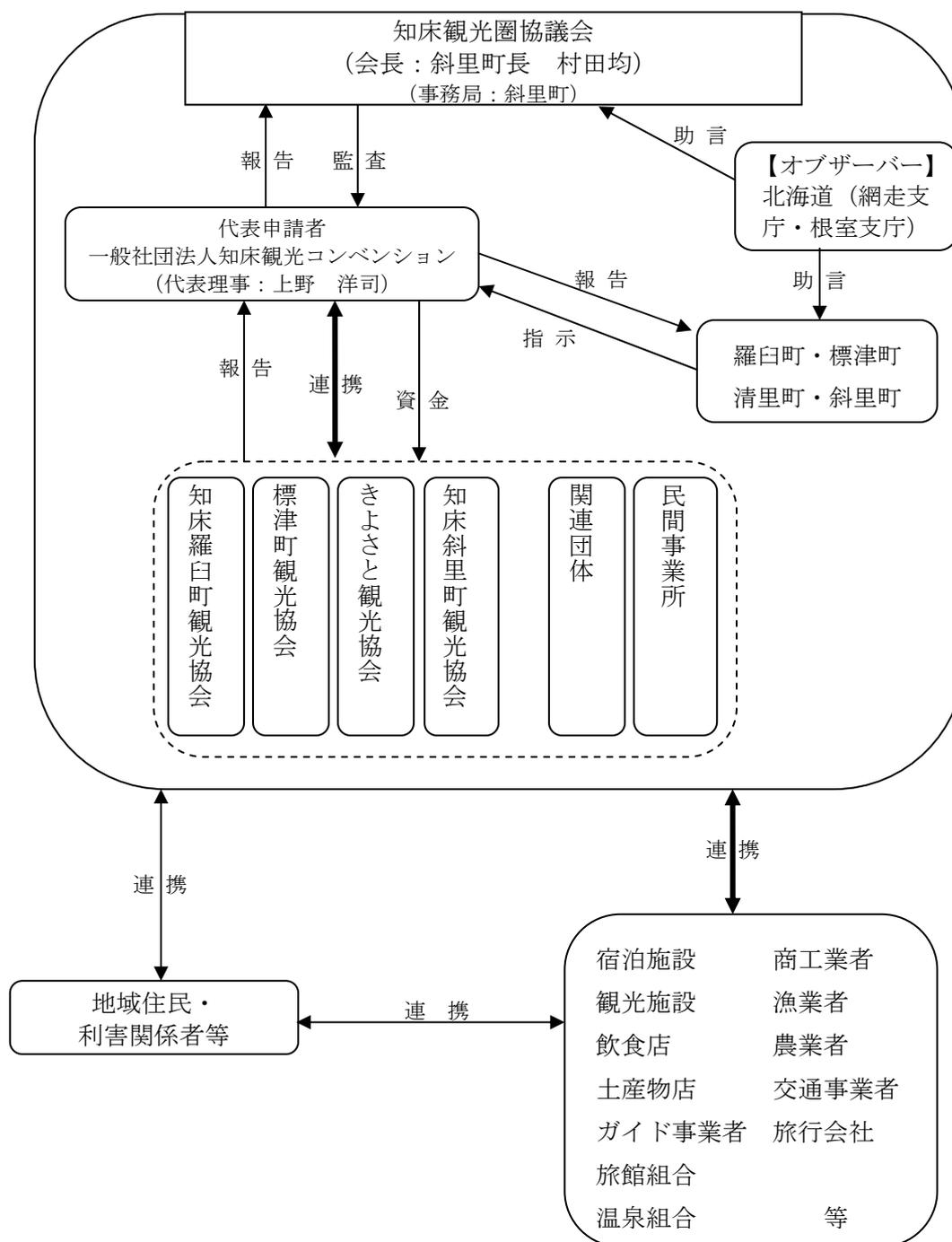
1.11泊(H20年度推定)から1.20泊(H25年度目標)へ、約8%増加させる。

目標4【リピート率】

1.00(H21年度仮定)から1.08(H25年度相対目標)へ、約8%増加させる。

(3) 地域住民等を中心とする観光まちづくり主体の確立による 継続的・自立的な活動体制の確立見通しについて

知床観光圏では、下図の体制をとり、継続的・自立的実行体制を確保する。



5. 観光圏整備事業に関すること

(1) 宿泊魅力の向上に関する事業

事業名称	宿泊魅力向上事業 (a-1)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会ほか
実施期間	平成 21 年度～平成 25 年度
事業概要	<p>滞在促進地区を中心とする観光圏内での滞在魅力を向上させ、連泊を促進するために、下記の事業などを展開する。</p> <p>①泊食分離導入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連泊を想定し、観光客の食の選択性を拡大するため、観光圏域内の宿泊所や飲食店が連携し、泊食分離システムの本格運用を目指すほか、ご当地メニューや特産品の開発支援を行う。 <p>②外国人滞在サポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近郊大学留学生によるモニターツアーを実施して、外国人の目線で観光地・案内所・体験プログラムなどを点検するほか、レストランメニューの外国語表記補助や、接客時のトラブル防止のための外国語サポート制度の創設、銀聯カードの導入支援などを行う。 <p>③イベント開発支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋から冬にかけての閑散期対策の一環としてイベントを開催し、観光PR、特産品アピールの他、特に個人観光客が楽しめるような企画を用意し、観光圏への集客に繋げる。 <p>④滞在促進サービス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内宿泊施設の連泊者への割引サービス、荷物搬送サービスなどを新設し、滞在やりピートを促す仕組み作りを行う。また、観光圏内観光施設への誘導を図るための方策も実施するほか、体験プログラム参加者の利便性向上のサービス（雨天時入浴サービス、レンタルサービスなど）も開発する。 <p>⑤知床パスポート導入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光圏域内の観光施設、宿泊施設、飲食店、土産物店、ガイド会社などでの共通電子パスの導入に向けた調査・検討を進める。

事業名称	着地型観光促進事業（a-2）
実施主体	（社）知床観光コンベンション、4町観光協会ほか
実施期間	平成21年度～平成25年度
事業概要	現在すでにある体験プログラムなどを地元主導による着地型観光システムとして再構築し、また、このシステム上で企画・開発する体験プログラムやミニツアーを増やすことによって、着地型観光を軌道に乗せることを目指し、連泊滞在、知床観光の魅力アップに繋げる。

事業名称	滞在促進地区環境整備事業（a-3）
実施主体	知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、旅館組合ほか
実施期間	平成21年度～平成23年度
事業概要	植樹、街灯整備、足湯整備、ポケットパーク形成など街並みを整備することによって、滞在促進地区としての基礎的な魅力を向上させ、宿泊者の散策を促し、滞留時間の増加、リピーターの獲得に繋げる。

（2）観光コンテンツの充実に関する事業

事業名称	体験型観光プログラム開発事業（b-1）
実施主体	（社）知床観光コンベンション、4町観光協会、ガイド事業者ほか
実施期間	平成21年度～平成25年度
事業概要	<p>圏域内の観光素材の魅力を十分に引き出し連泊滞在を促すため、特に豊かな自然を活用した体験プログラムの開発支援を行う。</p> <p>①トレッキングルート開発事業</p> <p>・登山道やトレッキングルートが不足し、羅臼岳や斜里岳の登山道、知床五湖やフレペの滝、羅臼湖などのトレッキングルートに観光客が集中していることから、新たな魅力の創出、自然への負担軽減のため、国立公園内外での新規ルート整備、フットパスコースの設定などを行う。また、冬季のスノートレッキングコースの設定も行う。</p> <p>②各種体験プログラム開発事業</p> <p>・知床の自然や一次産業の魅力を引き出す体験プログラム（サケマス関連（遡上観察、漁業体験、水産加工体験等）、磯の観察、サイクリング（知床峠ダウンヒル等）、ヒグマ観察ツアー、ホーストレッキング、スノーパーク開発など）の開発支援を行い、滞在メニューの増加を積極的に進める。</p>

	<p>③環境貢献・学習プログラム開発事業</p> <p>・植樹や海岸清掃などを環境貢献型体験としてプログラム化し、また、自然や産業、地域の魅力を座学で伝える知床学講座の開催や、オホーツク文化や北方領土などの学習の場も用意し、滞在時の魅力向上に繋げる。</p>
--	---

事業名称	ガイド育成事業 (b-2)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会、ガイド事業者ほか
実施期間	平成 21 年～平成 25 年
事業概要	年々増加するネイチャーツアーなどの職業ガイドの育成と、質的向上をサポートするための体制を整え、レベルアップを図る。また、参加者の安全確保と、自然環境への負荷軽減のために作成したエコツーリズムガイドライン (H19/3 制定) をより実効性の高いものにしていくための体制づくりを進める。

事業名称	教育旅行受入事業 (b-3)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会ほか
実施期間	平成 21 年～平成 25 年
事業概要	閑散期対策と滞在型観光の観点から、観光スポットのみならず、地域産業や文化、伝統、食と接触する機会を増やし、かつ地域とより深く交流し、世界自然遺産登録地として学習的な要素の高い教育旅行の造成・誘致を目指していく。

(3) 交通・移動の利便性向上に関する事業

事業名称	観光圏交通整備事業 (c-1)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会、バス事業者ほか
実施期間	平成 21 年度～平成 25 年度
事業概要	<p>観光圏内の公共交通機関が限定されていることから、圏域内の移動の利便性を向上させるため、下記の対策を講じる。</p> <p>①観光圏域内シャトルバス運行事業</p> <p>・ウトロー羅臼間など公共交通機関が限定され、かつ、体験プログラムや宿泊などに伴う往来が期待される区間で、期間限定で多目的シャトルバスを運行し、収支や永続性の検討を行う。4町でのイベントの実施などに合わせた臨時シャトルバスの運行や、知床エリア周遊化バス運行の調査検証も行う。</p>

	<p>②空港間アクセス改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域の最寄りの空港として、女満別空港と中標津空港があるが、特に中標津空港と圏域内とのアクセスが不便であることから、アクセス改善対策を調査し、連絡バスの導入実験などによる対応策を検討する。 <p>③滞在促進地区内連絡バス運行事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウトロ地区内の宿泊施設を循環する連絡バスの運行を試行し、空港間アクセスバス、圏域内シャトルバスとの円滑な接続をさせ、観光客の移動性を向上させる。
--	--

(4) 観光案内・観光情報の提供に関する事業

事業名称	観光情報整備案内事業 (d-1)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会など
実施期間	平成 21 年度～平成 25 年度
事業概要	<p>観光圏としての情報発信・案内業務を充実強化させるため、下記の事業を実施し、連泊滞在、リピーターの獲得を推進する。</p> <p>①観光情報整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域情報が、多様な興味をもつ多くの知床来訪者に有益であるためには、情報の一元化を図るべくデータベースを構築し、そのデータベースを用いて、HP、紙媒体、案内所、案内人、コールセンター、予約システムなどへ有機的に展開させていく。 <p>②観光案内パンフレット作成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光圏内で快適に過ごし、滞在のプランニングを補助する手段として紙媒体は依然として重要であることから、知床観光圏としてのパンフレットなどを作成し、魅力のアピールに努める。 <p>③観光案内充実強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所や宿泊施設などでの案内可能範囲を拡充させるため、観光圏としての案内マニュアルを整備するほか、案内所を補完するためのコールセンターなどの整備を行う。

事業名称	観光プロモーション・PR事業 (d-2)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会など
実施期間	平成21年度～平成25年度
事業概要	<p>観光圏としての魅力、取り組みを対外的に発信するため、プロモーション事業として下記の取り組みを行う。</p> <p>①観光プロモーション事業 主要ターゲットとして設定する3大都市圏を中心に、観光プロモーションを展開し、集客を図る。</p> <p>②インバウンド対策事業 東アジア・東南アジア圏からの外客誘致対策として、知床観光のエッセンスを盛り込んだ外国語パンフレット及びPR用DVDを作成し、積極的な誘致を図る。</p>

(5) 農山漁村交流促進事業

事業名称	農山漁村交流促進事業 (e-1)
実施主体	標津町観光協会、清里町ほか
実施期間	平成21年度～平成25年度
事業概要	<p>知床観光圏は自然地域であると同時に、漁業・畑作・酪農など北海道内屈指の規模で盛んな地域でもあり、知床を訪れる観光客が農漁村との交流の機会を創出可能であることから、下記の事業を展開する。</p> <p>①地元農畜産物展示即売交流施設整備事業 地元観光資源の紹介はもとより、地元で採れる農畜産物(加工品含)等を展示・即売し、訪れた人との交流ができる施設を整備することにより、農村地区における新たな地域の活性化を図る。</p> <p>②農山漁村活性化研修会開催事業 農業体験などにより、農山漁村活性化に取り組む先進地域関係者を招いて意見交換会を開催し、環境と産業との共生の仕組み作りや生産者の意識醸成による受入や体験活動の活性化を目指す。</p>

(6) その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する事業

事業名称	観光圏モニタリング調査事業 (f-1)
実施主体	(社) 知床観光コンベンション、4町観光協会など
実施期間	平成 21 年度～平成 25 年度
事業概要	<p>観光圏としての取り組みを適正に評価検証するためには、客観的なデータが不可欠であることから、下記の調査事業を行い、事業の検証に活用する。</p> <p>①観光入込客数調査事業 観光入込統計をはじめとする基礎データの収集・分析方法を見直し、実態のより正確な把握に努める。かつ、その調査方法にしたがって、モニタリングを調査を継続し、観光動向の把握に努める。</p> <p>②観光客顧客満足度調査事業 知床観光の満足度を多面的に調査し、改善を図るためのデータを取得する。</p>

6. 計画期間等

(1) 計画期間

本計画の期間は、平成 21 年度から平成 25 年度までの 5 年間とする。

(2) 計画の見直し手順等

社会情勢やニーズの変化に柔軟かつ迅速に対応するため、知床観光圏協議会内に設置する幹事会等において、随時、事業効果の検証、計画内容の確認を行い、必要に応じて、整備計画の改訂・変更を検討する。

知床観光圏協議会において、幹事会等から検討案を協議し、整備計画の改訂・変更を決定する。

7. その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

1. 一般国道334号の整備

本路線は、知床半島羅臼町の国道335号から分岐し、知床峠を経て半島を横断した後、斜里町宇登呂地区を通過し美幌町の一般国道39号に至る延長12.2kmの路線である。

本路線は、斜里町と宇登呂地区を結ぶ唯一の道路であり、また、平成17年7月に登録された世界自然遺産である知床半島への観光アクセス道路として重要な役割を担っている。

本路線のうち、斜里町～宇登呂地区間には、異常気象時の事前通行規制区間や冬期の地吹雪による視界不良発生区間があることから、現在、大雨による通行規制区間の解消、冬期交通の安全性の向上を図るための道路整備を進めている。

あわせて、専門家や地元関係者の参加を得て「一般国道334号斜里エコロード検討協議会」を設置し、エゾシカ等の移動路を確保するなど、野生生物の生態系に配慮した道路整備を進めている。

また、斜里町による宇登呂市街地再開発事業「ウトロ・アメニティタウン構想」などに基づき、宇登呂地区では、電柱等の地下埋設や植樹帯の整備等、知床観光の玄関口としてふさわしい景観に配慮した道路整備を進めている。

2. 知床標識協議会の開催

斜里町宇登呂から知床五湖・知床峠に至る一般国道334号、道道知床公園線、町道において、外国人観光客が安心して快適に観光ができるように、専門家や地域活動団体、観光関係者、行政などで構成する知床標識協議会を設置し、外国語表記の案内看板の整備を進めている。

3. 「地域高規格道路釧路中標津道路」の整備

釧路中標津道路は、釧路町を起点とし、標津町へ至る延長約100kmの地域高規格道路である。

知床観光圏と道東の交通拠点である釧路市などをネットワークすることにより、観光旅客の移動の利便性の向上が図られる。

4. 「地域高規格道路根室中標津道路」の整備

根室中標津道路は、根室市を起点とし、中標津町へ至る延長約40kmの地域高規格道路である。

知床観光圏と根室市、別海町、中標津町などをネットワークすることにより、周遊観光の促進が期待される。

5. ウトロ漁港の整備

ウトロ地区では、漁業活動の効率化や安全性の向上、高度な衛生管理による新鮮で高品質な水産物を供給するため、新港地区において新たな漁港空間である人工地盤の整備を進めている。

人工地盤は、知床観光船の発着場所として利用する他、水揚げ日本一のアキサケなどの陸揚げ作業を見学したり、美しい風景を展望する施設としても利用可能である。

また、平成19年4月にオープンした道の駅「うとろ・シリエトク」や平成21年4月にオープンする「世界遺産情報センター」などの周辺施設と連携し、世界自然遺産の知床観光拠点の一つとしての役割も担うこととしている。

6. 羅臼漁港の整備

羅臼漁港は昭和26年6月29日に第4種漁港に指定されて以来、町の中心漁港としてだけでなく、根室海峡海域の拠点的な避難・陸揚げ港として整備が進められてきた。

現在、外来船増加による係留施設の不足に対応した漁港整備、高度な衛生管理に対応した施設整備が続けられ、平成19年には衛生管理型埠頭が完成、供用が開始された。

海の観光基地として、観光クルーズ船の運航によるホエールウォッチングを始め、体験型観光としてのエコツーリズムを開催するなど漁業、漁港を生かした都市交流の充実を図っている。

8. 協議会に関する資料等

(1) 協議会の規約

※ 参考資料に添付。

(2) 協議会の協議結果

※ 参考資料に添付。

9. 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況

(1) 住民意見照会等の実施状況

平成 21 年 2 月 10 日から平成 21 年 2 月 17 日までの期間、羅臼町、標津町、清里町、斜里町において、知床観光圏協議会で承認された本整備計画（案）をそれぞれ公表し、意見を求めた。

(2) 住民から提出のあった意見、及び意見への対応結果

上記照会期間に、住民、その他利害関係者から意見の提出はなかったが、引き続き、整備計画の公表に努め、随時、意見を募集し、必要に応じて整備計画への反映に努めることとする。